

# お題目結縁運動

片桐要重

新潟法華寺の片桐要重と申します。よろしく申し上げます。年は八十になりました。どういう風が吹いてきたのか、この会議に話をすることに決まりました。教化研究ですから、これはやっぱり自分の考えも出さなければならんと思います、自分がやっていることをそのままお話しさせていただきます。題は「お題目結縁運動」ということで、「相手に応じた対応をしていこう」ということを念頭に入れて、お話しさせていただきます。

八年前に、NHKで『天地人』の放映がありました。実は、私たちのところの雲洞庵というお寺は、その上杉景勝だとか直江兼続が子どもの頃、修業をしたお寺なんです。それで、『天地人』の放映が始まりましたら、まあ、人が来る、人が来る。もう、バスは道路いっぱいになってしまった。そうすると、ボランティアのガイドが、うちの仕事もできないといって悲鳴を上げてしまった。それで、市でボランティアを募集しますというような広報が出ましたので、「私は日蓮宗だけど、曹洞宗のお寺をガイドしていいですか」といったら、「どうぞ。お願いします」と、こんなことがあります、それでガイドをするようになりました。

ここに、山門と参道が写っております(図2)。この参道が約八十メートルぐらいあるんですが、この参道の下に一つの石に一字ずつ法華経が刻まれて、埋められた。約七万字と、こういうふうには説明しておりますが、七万字が、この参道の下に埋められてある。「ああ、法華経になかなか縁のあるお寺なんだな」ということを、まあ、今さらながら感じていたんですが、地元の言葉で、「雲洞庵の土踏んだか」という言葉があります。「土を踏んだか」とい

うのは、この参道を踏みしめてお参りに来たか、ということなんですね。これを通って行きますと、その先に、ちょうど本堂の前に、如来と菩薩の像が離れて立っている(図3)。

そこで、私のガイド役なんです、「皆さん、如来と菩薩はどこが違うんですか」と尋ねるんです。「片一方は座って、片一方は立って」なんて、見ればすぐ分かるような返事が来ることもあるんですが、アクセサリーがあるかないかの大きな違いがあるということに、目をつけてもらいます。これはもう、みんなご存じのことなんですけど。それで、じゃあ、菩薩はどういう仕事をしているんだろう、どういう働きをしてくださっているんだろうか、ということとで私が話するのは、「如来は、何も飾りつ気がない、本当の真如の世界にいらっしゃった方で、私たちは、たくさんの色メガネを持っている。どういう色メガネかというと、損か得かとか、肩書きを見て、偉いとか、偉くないとか。日蓮宗の名簿も、何年か前から肩書きが載るようになりましたよね。あの肩書きです。肩書きで偉いとか偉くないとかいのが載っているんですけど、そういう肩書きで見る。それから、敵か味方かとか、そういういろいろいろな色メガネを持っていて、いつの間にか見ている。そのメガネを一つ一つ外して、悟りの世界に近づけてくれるのが、菩薩というお方ですよ、というような話を説明させてもらっております。

ところが、ちょうどその頃です。平成二十六年年度の北陸教区の教化研究会議がありまして、その時の題が「私のお題目観」で、「次世代を視野に入れながら、お題目を伝える活動」ということで、会を開きました(図4)。今日は、その時の講師もいらっしゃれば、助言者もいるし、座長もいらっしゃるんで、「お前、何言ってるんだ」って、後で注意することあったら、していただきたいと思います。

それで、これがちょうど、「お題目、私たちの願い」という、基本的な、根本的なものではないかなというようになことで、アンケートを取らせていただきました。「私のお題目観をどう伝えるか」という、そのアンケートを取りました。題は、「私にとってのお題目」。お斎きの場面といった、場を設定しました。で、お題目について、「どうして

ありがたいんですか」と、これは、檀家でも信者でもない人は、大体、聞くような話だと思えます。そういうものについて、「あなたは、どういうふうにお話ししますか」と、その答えを求めました。もう一つは、「法華経について聞かれたら、どういうふうの内容を話しますか」ということを、アンケートをやりました。たくさんいただきました。これがそのときの研究資料ですが(図5)、約半分近く、アンケートの回答があります。非常に参考になります。私にとってのお題目については、「信」と「行」と「知」を中心にして、まとめさせていただきました。それから、法華経については、法華経全体の話とか、それから、各品を取り上げて説明するものとか、その他いろいろなものを入れて、まとめさせていただきました(図6)。

そこで感じたことなんですが、回答の中で、大変に目にしたものはあるんです(図7)。それから、これは講師さんが取り上げてくださったんですが、「ありがたいものは、ありがたい」という。それから、こういう言葉もありました。これは分かるんですね。信者とかそういうのは分かるけども、一般の人はこれで分かるだろうかということも、私の心にあるんです。寿量品(じゅりょうほん)に、「信解(しんげ)」という言葉があります。信じて、解く。解くですね。信解する。これで信解できるのだろうか。だから、もっと分かりやすく、みんなに法華経の言葉を説明したり、お話ししたりするようなことはできないかというのは、いつも日頃考えてる出来事です。

そこで、相手に応じた対応の重要性です。これは誰でも同じだと思っんです(図8)。私も、例えばガイドをするときに、相手が大体いくつぐらいの人だろうか、何のために、観光で来たのか、それとも、このお寺に本当に宗教的なものを求めて来たのかというのを、相手を見極めてガイドをしなきゃならないということを感じました。それから、面倒な言葉は使つてはいけないということを心がけております。実は今日も、できるだけ皆さんに、簡単に、分かりやすくできないかなと思つて、こんな言い方をさせてもらっております。

それで、私が行つてる、いわゆる結縁運動として、法要では「お経が伝えること」という、そういう資料(図9)、

それを配って、お経にはこんなことが書いてあるんだよということを話し、お経を上げたり、説明させてもらっています。私なりの解釈で書いたところも結構あるので、「ちよつと違うんじゃないか」というところが見つかりましたら、教えていただければ、大変にありがたいです。よろしく願います。

なお、さつき参道の話をしましたけれども、「そのメガネを一つ一つ外すということは、実は、皆さんが踏んできたその法華経にみんな書いてあるんですよ」ということも付け加えて、話しております。

その他、こんな資料も作って、ガイドの説明をさせてもらっております(図10)。ここでも、多宝如来、釈迦如来って、そういうのもいろいろ出てくるので。大体、曹洞宗の道元禅師も、晩年は神力品(じんりきほん)を一生懸命に読まれていたという話を聞いたことがあります。だから、法華経とは大変に縁が深いというようなことなんです。他にも、曹洞宗の特徴である拈華微笑(ねんげみしょう)とか、そういう話をするとき、迦葉(かしょう)という坊さんはどういう坊さんだったかというような話もさせてもらっております。ついでに、「阿難(あなん)もいい男だったんだぞ」なんていう話もしながら、阿難の話もさせてもらっております。こういう方だったかは、省略させてもらいます。

その他、悩み事相談も受けております。私、何年か前からか、市の悩み事相談員になっておまして、いろいろの悩み事を受けております。その他、電話でも電話相談を受けております。電話は便利なんです。自分の身元を明かさないうで、本当のことを聞かせてくれる。そういうところがあって、しかも無料ということで、結構、一年間に五、六十は来てると思います。そういう相談を受けています(図11)。

ただ私、失敗したこともあります。自殺の願望者がおまして、その人が話を聞いているうちに、私もすっかり同情してしましまして、のめり込んでしまった。その人と同じような気持ちになったら、気がついたら、頭、もう真っ白になりました。そういうようなこともあるんで、のめり込まない、それから、視点を変えたアドバイスが必要だっ

てというようなことを心がけております。

これは、平成七年からやっておる、皆さんのところには一枚だけいったかもしませんが、こういったものを毎月出しております（図12）。毎月、喜んで読んでくださっているようです。このようなことで、平凡ながら、法華經の意味、そしてそこから出てくるお題目のありがたさ、そういうものに少しでも大勢の人に触れるような努力をしておりますが、皆さんからまたご指導いただければ、ありがたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

# お題目結縁運動

相手に応じた対応を

## 1 観光ボランティアガイド

古刹雲洞庵と法華経

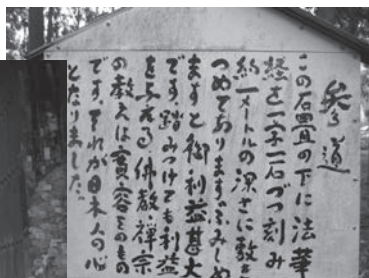


図2

## 如来と観音菩薩の違いは



図3

## 2 26年度の北陸教区教研会議

主題 「私のお題目観」

副題 「次世代を視野にいれながら、お題目を伝える活動を原点から改めて考えていこう」

図4

## 「私のお題目観」をどう伝えるかのアンケート

### ◎ 私にとってのお題目

お斉の場でお客から、お題目について「どうしてありがたいのですか」と聞かれたらどう答えますか。或いは、お題目についてどのような話をされますか。

### ◎ 私の法華経

お斉の場でお客から、「日蓮宗のお経(法華経)はどんなことが書いてあるのですか」と聞かれたらこの内容をどのように話しますか。

図5

## アンケートの集約 回答率30%

### 私にとってのお題目

- 信を中心としたもの
- 行を中心としたもの
- 知を中心としたもの

### 私にとっての法華経

- 包括したもの
- 各品から
- その他

図6



## 回答の中で目についたもの

- 本仏の一切衆生を救う知恵と慈悲心をもって  
いる...お題目の力
- ありがたいものはありがたいのです。
- 霊験奇跡を起こす力があるからありがたいと答  
えます。

図 7

## 相手に応じた対応の重要性

- 相手の年齢層
- どこから
- 何を求めてきたのか
- 平易な言葉遣いで  
相手が受け止めやすいように努力

図 8

## 私の行っている結縁運動

法要では

お経を訓読みの口語体で表した文書を作成、配布。

方便品      自我偈  
提婆達多品      如来神力品  
欲令衆

図9

## 観光ガイドでは

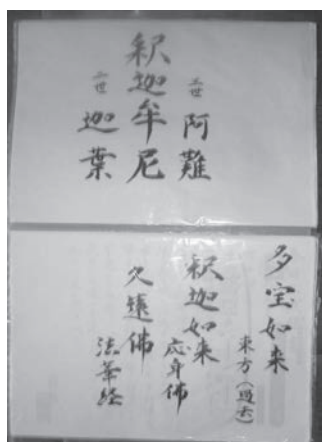


図10

## 悩み事相談では

- 市の悩み事相談
- テレホン悩み事相談
- のめり込まない
- 視点を変えたアドバイス

図11

## 「今月の言葉」

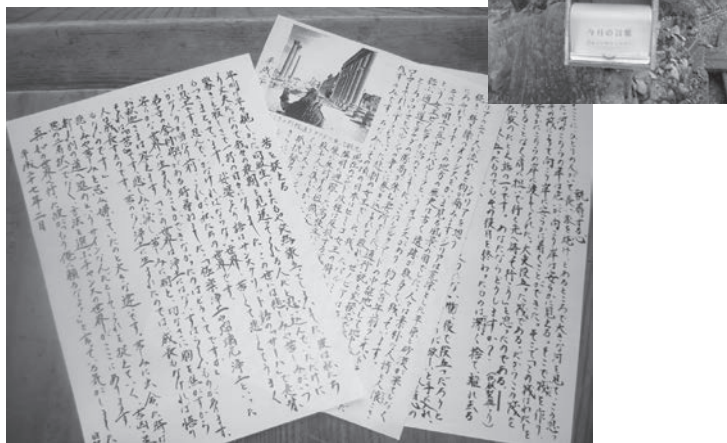


図12